

工場の 暑熱対策 ガイド

注目



暑熱対策にはこんなにたくさんの選択肢が！
あなたの「暑い！」に合った対策をご提案します。

少人数の人を冷やしたい

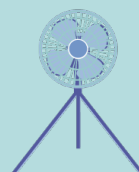
特定の場所で働く少人数のスタッフを直接冷却するのに最適です。
特に狭いエリアや移動が少ない作業者に効果的です。防爆型のスポットエアコンもごさいます。



① スポットエアコン



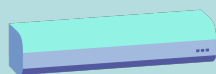
② 冷水循環ジャケット



③ 工場扇

快適な室内空間づくりに

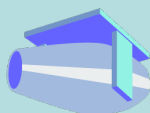
工場内の熱気や湿気を効果的に排出し新鮮な空気を取り入れます。
特に熱がこもりやすい場所では風の流れを作ることで環境を劇的に改善できます。



④ ルームエアコン



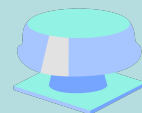
⑤ クールルーフファン



⑥ 誘引ファン



⑦ 壁掛け換気扇



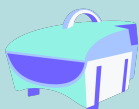
⑧ 屋上換気扇

屋外を冷却したい方に

エントランスや休憩所など広範囲のエリアを冷却するのに最適です。
またフォーク専用チャラーでシートを冷やすことで熱風のなかでもひんやり快適。



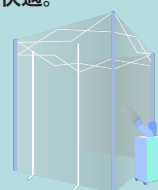
⑨ ミストファン



⑩ ミストシャワー



⑪ フォーク専用チャラー



⑫ クーラーテント



2025年以降は法令に注目！

2025年6月1日から、厚生労働省は企業に対して熱中症対策を罰則付きで義務づけました。職場の熱中症対策が法律で義務化され、すべての日本企業は対策をより強化する必要があります。対応を怠った場合は6か月以下の懲役または50万円以下の罰金が科せられる可能性があります。



対象 は「暑い場所での作業」

規制の対象となるのは、簡単に言えば「とても暑い環境で長時間行う作業」です。

具体的には「WBGT28度以上又は気温31度以上の環境下で連続1時間以上又は1日4時間以上の実施が見込まれる作業」を対象としています。

これらの作業がある場合は以下の対応が義務付けられます。

WBGT (Wet Bulb Globe Temperature) とは、

熱中症リスクの評価などに用いられる暑さや熱ストレスの指標の一つです。

「日差しなどで物が受ける熱の度合い」「空気そのものの温度」「水が蒸発する時の冷却の度合い」の三つを組み合わせて、暑さをより正確に測る方法です。

義務 付けられることは「3つ」



報告のしくみを作る

熱中症の疑いがある人をいち早く見つけて報告できる体制を整える必要があります。



対応の手順書を作る

熱中症の症状が出ている人を見つけた場合に備えて、適切な対処を行うための手順を事前に定めておく必要があります。



みんなに知らせる

報告体制と手順について、あらかじめ現場の関係者全員に周知する必要があります。

対策 はとにかく「暑い場所での作業」を減らす

義務として求められる対応はもちろんですが、そもそも熱中症になりにくい環境を作ることが何よりの対策です。弊社では、これらの暑熱対策に役立つ各種製品を取り揃えております。

お気軽にお問合せください